

平成 29 年度研究プロジェクト研究概要報告

研究種別	■自主研究 5	公益目的事業 16
主査名	黒田達朗 梶山女学園大学 現代マネジメント学部教授	
研究テーマ	国際的な観光に関する競争政策の実証的研究	
研究の目的： グローバル化の進行と各国の経済成長を背景として、観光が通常の財による国際貿易と同様の経済効果を有することが、ようやく一般にも広く認識されるようになってきている。しかしながら、観光産業の対象である観光客の意思決定動機の主要な部分は、当然訪問先の自然、伝統、文化、レジャー施設等における差別的な特色であり、交通施設を始めとする社会インフラの提供・改善を通じて、公共部門が関与できる領域も大きいと思われる。2016 年度は、2 国間の競争関係を、国民の厚生最大化を目的とした政府と、料金収入による利潤最大化を目的とした観光業者からなる逐次手番ゲームを用いて理論的に分析した。2017 年度においては、より具体的な政策の効果を検討することを目的として、観光を巡る国や地域の施設整備（道路、鉄道、空港、港湾など）やサービスの提供（広告・情報、宿泊、安全など）を対象に、観光客の増加など、その効果を実証的に明らかにすることを主要な目的としている。		
研究の経過（4 月～3 月）： 年度の前半は 2016 年の理論的分析を補足するため、国による人口の違い、観光のための交通費用等の影響等を、数値例を用いて理論的に分析した。また、観光の実証に関する先行研究のレビューを行った。後半は、特に中国における仏教の四大名山の一つである浙江省舟山市の普陀山を具体的な対象として、2009 年末に完成した大陸側（寧波）から舟山島への舟山跨海大橋の影響を、とくに訪問客数、宿泊施設等へ与えた影響を中心に、各種の統計データを時系列的に収集することで確認する作業を進めた。		
研究の成果（自己評価含む）： 上述のような統計データの収集・確認以外にも、2 月末には現地調査も行い、文化大革命により一時はほぼ完全に破壊された普陀山の宗教施設が復興され、近年は熱心な参拝客が極めて多数訪問することで、後追的に巨大なフェリー・ターミナルが新設されるとともに、参拝の基地である舟山島では大規模なホテル建設が進んでいることを確認した。また、隣接している朱家尖島は美しい海浜が観光の中心であり、近年、国際会議場も整備され外資系の宿泊施設も建設されているが、同時に多くの民宿が開設され、地域経済の維持・繁栄に貢献していることを確認した。		
今後の課題： 普陀山に関する具体的なデータは大変興味深い。たとえば、舟山島と異なり、島としての普陀山には地理的条件から大規模な宿泊施設があまりなく、多くは民宿であるためデータの制約もある。したがって、通常の統計分析の手法を適用するには不足する部分も多い。今後は、中国全体を対象としてデータの収集を進め、各種のインフラ整備がもたらす経済効果を計量的に評価したい。		